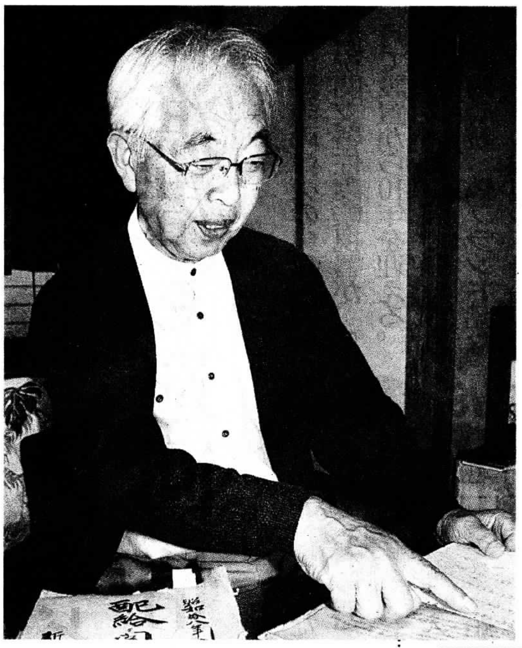
戦時下の暮らし リアル

新発田　町内会への配給資料見つかる

戦局悪化、先細る物資

郷土史家が論文　三之町の状況伝える

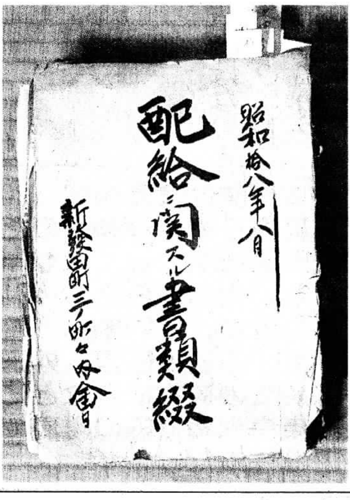
新発田市大栄町2の元中学校長で新発田郷土研究会会長の皆木邦夫さん(73)が、戦時中に町内会へ配給された食料などに関する資料をまとめたつづりを見つけ、論文にまとめた。資料は旧新発田町から町内会長への通達といった公文書など約390点で、戦時中の人々の生活を知る上で貴重だ。皆木さんは「配給の数字から厳しい暮らしぶりが垣間見える。戦争は二度とあってはならない」と話す。



戦時中の配給に関する資料を見つけ、論文にまとめた皆木邦夫さん＝新発田市大栄町2

つづりは1年半ほど前、市中心部にある三之町公会堂（同市大栄町1）の押し入れを整理していた際に見つかったという。B5判ほどの大きさで「配給ニ関スル書類綴」という表紙が付いている。新発田市役所は1964年の火災で全焼し、それ以前の公文書のほとんどが焼失しているだけに、今回の文書は価値があるという。

1943年9月2日から45年5月4日まで約1年8カ月間の、町から各町内会への通達や業者の伝票、メモ書きなどがつづられていた。当時の町内会長がまとめたものとみられる。通達などによると、当時三之町には約340戸に1600人余りが住んでいた。



戦時中の配給の状況を伝える資料「配給ニ関スル書類綴」

皆木さんは1年ほどかけて一枚一枚チェックし、いつごろ、どのような物資の配給があったかなどを調べた。その結果をみると、戦況の悪化に従って、配給も徐々に減少していく様子がうかがえる。

コメは43年以降、配給量が減少。21～60歳では43年1月の改正で1日分357グラムから322グラムに、重労働男子では45年7月の改正で600グラムから400グラムと3分の2に減らされた。

燃料不足も深刻だった。45年3月には燃料確保のため加治川の桜を伐採するとした通達も見つかった。「地域の誇りだった桜の木まで伐採せざるを得なかったことを思うと本当に切ない」という。

皆木さんが驚いたのは、日本酒やビールなど酒類が安定して配給されている点だった。すでに戦況が厳しくなっていた44年10月には「大戦果祝賀士気高揚」を理由として、特別に一升券68枚が町内会に配給されていた。皆木さんは「栄養不足によって当時の子どもたちの成長が遅れていたことを考えると、少しでもコメに回すことができなかったのか」と語る。

皆木さんはこれらの内容をまとめ、「新発田郷土誌」第47号に発表した。「調べるとまだまだ新しい事実も出てくる。今後も継続して発表していきたい」と話している。

同誌の問い合わせは大沼さん、0254（32）2348。